令和7年度 教育事業

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
「能登ステージ」～高校生交流会～

1 趣 旨

地域探究プログラムオリエンテーション合宿での学びを深めるとともに、他校の高校生同士が交流し、互いに刺激し合うことで、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを身に付けるきっかけとする。また、同年代の仲間を増やすことで、多様な価値観に触れ、人としての在り方を考えるなど、新たな価値を創造する高校生の育成を目的とする。

2 日程

（1）期 日　　令和7年 12 月6日（土）～12 月7日（日） 1泊2日

（2）参加者　　石川県立鶴来高等学校　第2学年　2名

石川県立羽咋高等学校　第2学年　16名

金沢高等学校　第1学年　1名　合計 19 名

（3）協力団体　一般社団法人 まるオフィス

（4）日程及び研修内容

12 月6日（土）		12 月7日（日）	
13:15	集合・受付	6:00	起床・洗面・着替え
13:30	開講式	6:30	清掃
13:40	アイスブレイク NOTO ジョイフレンド	7:00	朝のつどい
15:30	① わたしの探究 語りタイム	7:20	朝食
	～思いを伝える わたしの探究～	8:30	宿舎点検・荷物移動
17:45	ふとんメイキング	9:00	④ わたしの探究 伝えタイム
18:15	夕食づくり（鍋）		～昨日より今日のわたし～
19:30	② わたしの探究 深めタイム	12:30	昼食
	～カタリバ探究 車座トーク～	13:15	振り返り・事務連絡
21:00	入浴	13:45	閉講式・解散
22:00	③ なかまといろいろ しゃべりタイム		
23:00	就寝準備・就寝		

3 成果と課題

（1）活動プログラムの実際

①参加者が自ら取り組んでいる探究活動を発表し、参加者同士が初発の感想を伝えたり、質問したりすることで、より相手意識をもって伝えることへの意識づけを行った。

②宮城県気仙沼市を拠点に探究活動を行っている（一社）まるオフィスの職員の方にオンデマンド配信で参加していただいた。参加者の探究活動での悩みや不安等についての助言、探究活動についてのメッセージをいただいたことで、発表の見通しと探究活動を進めることへの自信につなげた。

③1日目を振り返って学びを整理したり、学校やテーマ、個人・グループの垣根を超えて交流を深めたりすることで、協働性と同僚性を高められるようにした。

④授業分析ソフト S-T 分析をカスタマイズしたものを企画指導専門職が活用し、個々の参加者の発表を分析する。分析後、速やかにフィードバックを行い、前日に学んだことを生かして、発表原稿を

作成した。また、発表後は、参加者が互いの発表について、発表評価シート（マイクロフォーム）で相互評価するとともに、良い点及び改善点を口頭で伝え合った。これらの手だてにより、発表者が自らの発表内容や論の立て方等の傾向を視覚的に捉え、相手に効果的に伝える内容を検討し、改善する一助となるようにした。

（2）アンケート結果について

能登ステージ全体の満足度（満足89.5%　やや満足10.5%）、「わたしの探究　語りタイム」（満足94.7%　やや満足5.3%）、「わたしの探究　深めタイム」（満足78.9%　やや満足21.1%）、「なかまといろいろしゃべりタイム」（満足94.7%　やや満足5.3%）、「わたしの探究　伝えタイム」（満足84.2%　やや満足10.5%　やや不満5.3%）であった。

① OR 合宿での学びを活かして自分から挑戦し、探究をすることで探究の魅力をさらに実感できた。
② 学校では気付かなかった課題が多く見つかりとても充実した。また、他校の生徒からも刺激を受け、がんばる活力がより生まれた。
③ 初めて話す仲間とこの能登ステージを終え、終わったあとの達成感がすごかった。
④ 他のグループの成果や改善点を考えることは、ひいては自分を客観視することにつながった。
⑤ まるオフィスの方から「一言しか伝えられないとすれば何を伝えたいか」と問われたとき、自分たちの探究の原点や妙成寺への思いを改めて確認することができた。
⑥ 最初は気が張っていたけど、交流を深めるにつれて楽しくなり、リラックスして過ごすことができた。

（3）成果と課題

①成果

・高校生同士の交流によって学びを深められるよう、企画指導専門職がコーディネートしたため、学び合いが活性化し、発表の質の高まりがどの個人・グループにも顕著に認められた。
・夕食づくりや夜の交流タイムでは、学校や学年、男女の垣根を取り払って活動したことで、交流がより深まり、2日目には多くの生徒が質問・提案する姿につながった。
・発表動画での検証、データ分析、参加者による相互評価と、多視点から主観的かつ客観的なエビデンスを用いたことで、各自が納得感を得ながら、ぞれぞれの課題を洗い出すことにつなげていた。

②課題

・探究活動の実践活動そのものが少ない生徒は、現状や課題等についての発表内容の割合が多くなる。そのため、探究活動において、「実践」から見える自分の考えを再構成したり、見出したりすることができるよう、学校の探究担当者や支援者へ、生徒への助言を依頼する必要がある。

4 事業の様子

【夕食づくり（鍋）】

【講座④　わたしの探究 伝えタイム】